

もっと気軽に音楽を！新シリーズもスタート！

コンサートホール 他

詳細はP10・P11・P12・P14へ

ワクワク感がさらにアップ！夏からの新企画ほか、多彩なコンサートが次々に登場。



人気の「ランチタイム」シリーズでオルガン三昧

東京芸術劇場のステージにあるパイプオルガンには「2つの顔」があることをご存知だろうか。一方はアンティークな雰囲気を感じさせる「バロック」様式、もう一方はシャープな印象が強い「モダン」様式。演奏される曲などによってチョイスされ、回り舞台のようなシステムによって客席へ向ける「顔」を変えるのだ。こうした楽器だからこそコンサートの選曲は多彩になり、幅広い音楽ファンに楽しんでもいただけるのだろう。

このオルガンによる人気シリーズが、1999年から続いている「ランチタイム・パイプオルガンコンサート」だ。毎月1回、ベテラン奏者から新進オルガニストまでが次々に登場するこのシリーズは、オルガン演奏とホールの音響・空間を味わっていただけるとあって好評。この7月には記念すべき100回を迎える。さらには並行して行われている「パイプオルガン講座」も盛況であり、こちらも7月に50回を迎えるという人気ぶり。バックステージ見学とオルガンの仕組みが学べる回や、ホールで行われるリサイタルの予習ができる回など、普段はなかなか接することができないパイプオルガンに親しめるとあって、熱心なファンが集まっている。

19:30から1時間の「ナイトタイム」もスタート

さらに、この8月からはますますオルガンの魅力を知っていただける新企画がスタート。8月、10月、そして2014年2月に予定されている「ナイトタイム・パイプオルガンコンサート」は、タイトルのように夜の19:30から約1時間行われる。仕事を終えて帰宅途中の方、「ランチタイ

ム」は仕事や学校などがあり行けない……という方にはぜひ足を運んでいただきたい。これまで「せっかく聴きたいのに昼間ばかりで残念」とあきらめていた方には朗報だ。これに伴って人気シリーズの「ランチタイム〜」「パイプオルガン講座」は9月以降、隔月の開催に。12月のクリスマス・シーズンを彩る「パイプオルガンコンサート」も含め、東京芸術劇場の輝かしく重厚、そして心が震えるようなオルガン・サウンドを堪能できるだろう。

こうしたコンサートに加え、8月からはコンサートホールのエントランスで行われる「ティータイム・コンサート」もスタート。こちらはピアノや歌、室内楽など多彩な音楽を無料で楽しめるのだ。コンサートはお子さんが一緒にオーケストラ・ショッピングの前後、気軽に立ち寄って音楽を楽しめる貴重なチャンスになる。

人気シリーズが楽しめる春から初夏、そして新シリーズがスタートする盛夏以降。東京芸術劇場のオルガンと気軽なコンサートからは目が離せない。

文：オヤマダアツシ

人気シリーズに加え、新企画も続々スタート！  
7月からの注目公演  
LINEUP

ランチタイム・パイプオルガンコンサート  
12:15~12:45

7月25日[木] 小林英之、新山恵理、平井靖子  
9月26日[木] 永瀬真紀  
11月7日[木] / '14年1月16日[木] / '14年2月20日[木]

ティータイム・コンサート  
14:00~14:30

8月27日[火] 原田靖子〈子供向け〉  
10月29日[火] / 12月24日[火] / '14年2月18日[火]

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート  
19:30~20:30

8月8日[木] 小林英之 & 緒方恵(Vn)  
10月3日[木] 新山恵理 & 福井健太(Sax)  
'14年2月13日[木] 平井靖子 & 青木洋也(C-Ten)

パイプオルガン講座  
14:00~16:00

7月25日[木] 第50回 特別編 紙パイプ工作  
9月26日[木] 第51回 基礎編  
11月7日[木] 第52回 クリスマス・コンサートによせて  
'14年1月16日[木] 第53回 基礎編

クリスマス・パイプオルガンコンサート  
19:00~21:00

12月18日[水] 川越聡子

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～ エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO

10月10日[木]～12日[土] コンサートホール

話題騒然、21世紀のクラシック音楽界をリードする「エル・システマ」の祭典。



クラシック音楽シーンに、南米のベネズエラから突然現れた、斬新な青少年の教育システム「エル・システマ」。少年少女への英才教育に注目が集まり、世界的な音楽家たちも称賛するこの機関は、<21世紀におけるクラシック音楽界の希望>といった高評価を受け、日本でも英語の教科書に掲載されるほど話題になっている。

その中で育ったグスターボ・ドゥダメルや2011年の「サイトウキネンフェスティバル松本」に出演したディエゴ・マテウスらは、あつという間に世界的なスター指揮者となり、21世紀のリーダーとして期待されている。しかし多くの音楽ファンは、ステージ狭しと並んだ大編成のオーケストラ「シモン・ポリバル・ユース・オーケストラ(現：シモン・ポリバル交響楽団)」

指揮：ディートリヒ・パレーデス(10H・11H) / レオン・ボットスタイン(12H)  
管弦楽：エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス(EYOC)

10月10日[木] 19:00開演

ガラ・コンサート  
藤倉大:Tocar y Luchar  
モーツァルト:クラリネット協奏曲  
マッティンソン:コントラバス協奏曲  
(独奏:E.ルイス)他

10月11日[金] 19:00開演

ヴェルディ:「運命の力」序曲  
グリーグ:ピアノ協奏曲  
(ピアノ:萩原麻未)  
チャイコフスキー:交響曲第5番

10月12日[土] 18:00開演

ヴェルディ:「運命の力」序曲  
モーツァルト:木管楽器のための協奏曲  
ショスタコーヴィチ:交響曲第7番  
「レニングラード」

が、バーンスタインの「マンボ!」やチャイコフスキーの交響曲などをアツク演奏する姿を見て驚いたことだろう。そして2008年12月、彼らが鮮烈な日本デビューを飾ったのは、ほかならぬ東京芸術劇場だったのだ。

その燃えるような魂が、『エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO』として10月に再び東京芸術劇場へと蘇る。この優れた機関で音楽教育を受けた若き音楽家たちで結成される「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」が、注目すべきヤング・マエストロと来日。さらには、17歳でベルリン・フィルへと入団し「エル・システマ」が世界に知られるきっかけを作ったエディクソン・ルイス(コントラバス)というスター奏者も登場。コンサート

はもちろん、トーク・ライブなども含むワークショップやマスタークラスなども行われる。コンサートには生き生きと表情豊かに音楽を奏でる注目のピアニスト、萩原麻未もソリストとして登場する予定だ。

10月10日～12日の3日間は、丸ごと「エル・システマ」の魅力と真実、そして圧倒的なパワーに接する最高のチャンス。震災被災地である福島県相馬市での活動にも注目が集まる中、音楽ファンはもちろん、音楽教育に携わる方々や学生、新時代のクラシック音楽シーンを先取りしたい方など、多くの皆さんに衝撃的な体験をしていただきたい。

文：オヤマダアツシ

INTERVIEW



ディエゴ・マテウス

1984年生まれ。2008年に国際デビューし、現在はヴェネツィアの由緒ある「フェニーチェ劇場」首席指揮者を務める。日本には2011年の「サイトウキネンフェスティバル松本」に登場し、2013年にはNHK交響楽団も指揮。

私の「家」である「エル・システマ」の魅力を味わってください。

若くてとてもエネルギーあふれるオーケストラである「ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」が日本へ来日すると知り、東京でもきっと素晴らしい演奏を披露してくれると楽しみにしています。「エル・システマ」の創始者であるホセ・アントニオ・アブレウ博士とこのオーケストラは世界ツアーもスタートさせ、各地でいい演奏をしようという熱意にあふれています。彼らも今回の「エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO」に参加し、日本の若者や音楽を愛する方たちと交流できることを楽しみにしています。

私は8歳くらいから「エル・システマ」で音楽の勉強をはじめ、ホセ・アントニオ・アブレウ博士にお会いしたのは12歳のとき。15歳になると首都のカラカスに引っ越しをして、さらに本格的なヴァイオリンや指揮の勉強をしたのです。「エル・システマ」は私にとって「家」であり、教育の機会や楽器

などすべてを与えてくれました。

アブレウ博士は、単に音楽を教えてくれた恩師というだけでなく「父親」のような存在なのです。現在も熱心に指導をしていますし、音楽を通じて大勢の若者にチャンスを与え、彼らの人生を変えた人でもあります。今回、日本で演奏するエディクソン・ルイスは、素晴らしい音楽家であり私の大切な友人。エディクソンは今や世界のコントラバス界をリードしている奏者の一人ですので、ぜひ演奏を聴いてください。

このフェスティバルによって、ベネズエラと日本の文化交流が実現することをとても幸せに思います。ぜひたくさんの方に、私たちの「エル・システマ」がいかに素晴らしいかを知っていただきたいですね。

2013年3月東京芸術劇場にて  
取材：編集部